

(様式第9)

大市大病第 265 号
平成19年 9 月 26 日

厚生労働大臣 舛添 要一 殿

公立大学法人大阪市立大学 理事長 金児 暁嗣

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	101 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	278		278.0	看護業務補助者	56	診療エックス線	
歯 科 医 師				理 学 療 法 士	7	臨床検査技師	58
薬 剤 師	39	7.0	46.0	作 業 療 法 士	3	衛生検査技師	
保 健 師				視 能 訓 練 士	2	随 そ の 他	
助 産 師	33		33.0	義 肢 装 具 士		あん摩マッサージ指圧師	
看 護 師	626	73	699.0	臨 床 工 学 技 師	6	医療社会事業従	
准 看 護 師	6	6.3	12.3	栄 養 士	2	その他の技術員	3
歯 科 衛 生 士				歯 科 技 工 士		事 務 職 員	68
管理栄養士	8		8.0	診 療 放 射 線 技 師	48	そ の 他 の 職 員	74

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位で切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	793.8人	—	793.8人
1日当たり平均外来患者数	2,171.6人	—	2,171.6人
1日当たり平均調剤数		1,530.0 剤	

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	4人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	5人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	4人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髓細胞移植による血管新生療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	15人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・無	1人
・31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	0人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	0人
・頰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	0人
・活性化血小板の検出	有・無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	0人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
眼底三次元画像解析	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	0人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。
3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	73人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	13人
・多発性硬化症	37人	・ウェゲナー肉芽腫症	5人
・重症筋無力症	50人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	34人
・全身性エリテマトーデス	254人	・多系統萎縮症	17人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	47人	・膿疱性乾癬	15人
・サルコイドーシス	56人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・原発性胆汁性肝硬変	91人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	144人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	78人	・特発性大腿骨頭壊死症	76人
・結節性動脈周囲炎	25人	・混合性結合組織病	37人
・潰瘍性大腸炎	420人	・原発性免疫不全症候群	2人
・大動脈炎症候群	18人	・特発性間質性肺炎	12人
・ピュルガー病	22人	・網膜色素変性症	20人
・天疱瘡	17人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	44人	・原発性肺高血圧症	1人
・クローン病	267人	・神経線維腫症	24人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	109人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	1人	・ラインゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	21人
・後縦靭帯骨化症	64人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	2人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に2回程度		
剖検の状況	剖検症例数	55例	剖検率 20.7%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
気道微小循環を基盤とする気管支喘息の病態生理の確立とその新規治療への展開	金澤 博	第一内科	1,700,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
心不全に対しβ遮断薬療法を安全かつ有効に導入するための統合的ゲノム薬理学研究	葭山 稔	第一内科	7,500,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
骨格筋サイトポピュレーション細胞を用いた重症心不全への細胞移植療法	葭山 稔	第一内科	2,200,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
簡易インスリン抵抗性評価法の構築による動脈硬化症の発症進展予知の確立	絵本 正憲	第二内科	600,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
糖尿病、血小板活性化と動脈硬化の相互病態関連における可溶性糖化蛋白受容体の意義	小山 英則	第二内科	500,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
副甲状腺ホルモン分子のアミノ期末端側における断片化機構の研究	今西 康雄	第二内科	2,000,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
糖尿病患者における動脈壁硬化に対する腎症とAGEの影響	庄司 哲雄	第二内科	2,000,000	補 委 財団法人大阪難病 研究財団
関節リウマチ・骨粗鬆症の重症化防止治療開発研究	西沢 良記	第二内科	10,000,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
炎症性腸疾患における腸管上皮細胞間接着蛋白の研究	押谷 伸英	第三内科	1,100,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
腹膜中皮細胞へのinterleukin-10導入を応用した消火器癌遺伝子治療	富永 和作	第三内科	1,200,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
HBV DNAのヒトゲノムへの組み込みからみた肝発癌機構の再考	田守 昭博	第三内科	900,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
アラキドン酸代謝からみたバレット食道・腺癌発生過程の分子機構の解明	藤原 靖弘	第三内科	1,800,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
クローン病小腸病変に対する親子式スコープの有用性に関する研究	渡辺 憲治	第三内科	500,000	補 委 財団法人 内視鏡 医学研究振興財団
アラキドン酸代謝からみたバレット食道・腺癌発生過程の分子機構の解明	藤原 靖弘	第三内科	1,800,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
変性赤血球による非アルコール性脂肪性肝炎病態の修飾	河田 則文	第三内科	2,000,000	補 委 文部科学省科研費 萌芽研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児医療現場における集団変容の要因とプロセスに関する質的研究	山口 悦子	小児科	700,000	補委 文部科学省科研費萌芽研究
発達期に発生すおおる外因性脳障害の診断・治療予防のための実証的研究とガイドライン作成(田村班)	山野 恒一	小児科	1,200,000	補委 厚生労働省科研費補助金
ライソゾーム病の病態解明及び治療法の開発に関する研究(衛藤班)	田中 あけみ	小児科	1,300,000	補委 厚生労働省科研費補助金
先天性代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築(松原班)	田中 あけみ	小児科	200,000	補委 厚生労働省科研費補助金
新しい新生児スクリーニング体制に関する研究(山口班)	田中 あけみ	小児科	50,000	補委 厚生労働省科研費補助金
現行マススクリーニングの問題解決に関する研究(原田班)	新宅 治夫	小児科	900,000	補委 厚生労働省科研費補助金
microPETを用いた低酸素性虚血性脳症の病態解明と治療法に関する研究	新宅 治夫	小児科	1,300,000	補委 文部科学省 基盤研究(C)
タンデムマスによるマススクリーニングの効果に関する研究(重松班)	岡野 善行	小児科	200,000	補委 厚生労働省科研費補助金
乳幼児のぜん息ハイリスク群を対象とした保健指導の実践および評価手法に関する調査研究(新宅班)	新宅 治夫	小児科	10,000,000	補委 独立行政法人・環境再生保全機構
アジアにおけるシトリン欠損症の診断と治療(小林班)	岡野 善行	小児科	800,000	補委 日本学術振興会・アジア・アフリカ学術基盤形成事業
職場ストレス、抑うつ度の把握と性格傾向に基づいたストレス対処方法の開発	井上 幸紀	神経精神科	1,500,000	補委 文部科学省 基盤研究(B)
衝動性と脂質代謝、免疫能、摂食障害と若年うつ病、社会不安障害患者の比較	永田 利彦	神経精神科	700,000	補委 文部科学省 基盤研究(C)
摂食障害モデルラットを用いてレプチンによる過食症状抑制の可能性を検討	井上 幸紀	神経精神科	500,000	補委 文部科学省科研費萌芽研究
強迫性障害発症要因研究、PANDASとの関連性検討	松永 寿人	神経精神科	1,000,000	補委 文部科学省 基盤研究(C)
乾癬候補遺伝子としてのIRF2遺伝子のエピジェネティクス解析	深井 和吉	皮膚科	1,300,000	補委 文部科学省 基盤研究(C)
サイトカインによる好中球の細胞運動と活性化における細胞内シグナルの機能解析	忽那 晴央	皮膚科	1,100,000	補委 文部科学省 基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
定位放射線照射実験モデルによる脳障害の画像および病理組織による検討	細野 雅子	放射線科	1,400,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
スキルス胃癌の病態に基づいた分子標的治療の開発	八代正和	第一外科	2,000,000	補 委 財団法人 日本消化器病学会
胃癌に対する分子標的治療	八代正和	第一外科	1,000,000	補 委 大阪難病研究財団 医学研究助成
KGFR阻害剤およびTGFβR阻害剤を用いた胃癌転移の分子標的治療開発	八代正和	第一外科	2,000,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
胃癌化学療法における抗癌剤感受性試験の有効性を検証する他施設共同比較臨床試験	平川 弘聖	第一外科	500,000	補 委 文部科学省 基盤研究(A)
スキルス胃癌の病態と分子標的治療	平川 弘聖	第一外科	2,730,000	補 委 文部科学省 基盤研究(B)
進行肝細胞癌に対する集学的治療に関する研究	久保 正二	第二外科	1,000,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
ワイドスクリーニング用マイクロアレイCGH解析システム構築と肝癌責任遺伝子探索	久保 正二	第二外科	800,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
脳梗塞の発症を予知するための脳磁計測を用いた非侵襲的脳機能診断法の開発	露口 尚弘	脳神経外科	700,000	補 委 文部科学省 基盤研究(C)
脊髄回復可能閾値の定量測定と手術法の定量評価	後藤 剛夫	脳神経外科	400,000	補 委 文部科学省 若手研究(B)
ウェアラブル重心動揺測定装置を用いた人工関節置換術後早期リハビリ法の考案	袴 史明	整形外科	1,680,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	高岡 邦夫	整形外科	1,200,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
医療機器、医療材料の安全性評価手法開発に関する研究	脇谷 滋之	整形外科	2,000,000	補 委 厚生労働省科研費 補助金
幹細胞等を用いた細胞組織医療機器の開発と評価技術の標準化	脇谷 滋之	整形外科	2,000,000	補 委 ヒューマンサイエンス 振興財団
BMP signalingへのPKA系からの増幅効果のメカニズムの解明	高岡 邦夫	整形外科	1,000,000	補 委 代謝性骨疾患研究会
超音波薬剤導入法を用いた関節リウマチの腫脹関節局所抗炎症療法	脇谷 滋之	整形外科	2,000,000	補 委 財団法人大阪難病 研究財団
手の外科学における先端治療の研究及び修得	岡田 充弘	整形外科	500,000	補 委 財団法人大阪難病 研究財団

小計17

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
合成骨形成蛋白の骨形成能を臨床実用化するための統合的技術の開発	高岡 邦夫	整形外科	13,400,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(S)
骨形成制御の細胞内シグナル伝達系におけるクロストークの解明と骨再生への応用	小池 達也	整形外科	4,200,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(B)
組織再生促進サイトカイン含有ナノファイバーを用いた新しい腱縫合糸の開発	香月 憲一	整形外科	2,500,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)
関節潤滑を改善し、軟骨再生を促進する関節内投与型ドラッグデリバリーシステム	北野 利夫	整形外科	2,000,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)
BMPの初期応答遺伝子群の同定および機能解析	辻尾 唯雄	整形外科	2,600,000	補委 文部科学省科研費若手研究(B)
骨膜移植とBMPとの複合による長管骨欠損修復	岡田 充弘	整形外科	2,100,000	補委 文部科学省科研費若手研究(B)
Nogginの遺伝子発現制御による新しい骨形成制御技術の探索	寺井 秀富	整形外科	1,100,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)
薬物代謝酵素CYP3A4活性とステロイド剤誘発骨疾患発生との関連に関する研究	小林 章郎	整形外科	1,600,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)
bFGF-DDSを用いた末梢神経欠損部の人工神経による架橋実験	高松 聖仁	整形外科	1,000,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)
メカニカルストレスの感知機序と骨形成促進効果への低分子Gタンパクの役割と検索	袴 史明	整形外科	500,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)
小児骨折での骨変形自然矯正機構の解明(ホメオボックス遺伝子の役割)	高岡 邦夫	整形外科	1,500,000	補委 文部科学省科研費萌芽研究
前駆細胞からの軟骨分化誘導実験系での網羅的遺伝子発現解析と、その組織修復への応用	脇谷 滋之	整形外科	2,400,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(B)
前立腺癌におけるp27kip1制御因子による抗腫瘍効果の研究	田中 智章	泌尿器科	600,000	補委 文部科学省科研費若手研究(B)
テトラヒドロビオプテリン羊水内注入による胎盤血流改善療法の開発	山根 誠一	産婦人科	1,100,000	補委 文部科学省科研費若手研究(B)
癌悪液質における多臓器不全のメカニズム解明とその改善法	石河 修	産婦人科	400,000	補委 文部科学省科研費基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
レーザースペックル眼底血流計からみた脈絡膜微小循環変化	白木 邦彦	眼科	600,000	補 委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
内耳虚血から見た内耳障害の細胞・遺伝子医学	山根 英雄	耳鼻咽喉科	900,000	補 委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
前庭・半規管の血流調節機構の検討-組織学的および光工学的手法を用いて	角南 貴司子	耳鼻咽喉科	700,000	補 委	文部科学省科研費 若手研究(B)
ニューロパシクペイン(神経因性疼痛)の分子生物学的研究	西川 精宣	麻酔科	1,500,000	補 委	財団法人 大阪難 病研究財団
麻酔薬の作用発現調節機構-脳内薬物動態と麻酔効果の関連の解明	小田 裕	麻酔科	700,000	補 委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
難治性疼痛治療の新しいアプローチ、ミクログリアP2X4受容体機能と発現の検討	森 隆	麻酔科	2,200,000	補 委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
ニューロパシクペインにおける交感神経遮断の分子生物学的意義	西川 精宣	麻酔科	1,900,000	補 委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
交感神経 α 2受容体作動薬の抗痙攣作用のついて-その機序の解明と臨床応用	濱岡 直也	麻酔科	900,000	補 委	文部科学省科研費 若手研究(B)
電気痙攣療法による疼痛緩和メカニズムの解明-神経因性疼痛治療への応用に向けて	長谷 一郎	麻酔科	1,800,000	補 委	文部科学省科研費 若手研究(B)
交換神経受容体の中枢神経作用-脳内 α 2、 β 受容体の機能の解明	鳥山 澄子	麻酔科	1,800,000	補 委	文部科学省科研費 若手研究(B)
門脈血行異常に関する調査研究	塩見 進	核医学	700,000	補 委	厚生労働省科研費 補助金
骨粗鬆症治療が及ぼす顎骨や歯周組織への影響	三木 隆巳	老年内科・神経内科	600,000	補 委	文部科学省科研費 若手研究(B)
ビスホスホネート治療による副甲状腺ホルモンへの影響	三木 隆巳	老年内科・神経内科	2,000,000	補 委	大阪腎臓バンク
高齢糖尿病患者における認知機能障害に関する研究	嶋田 裕之	老年内科・神経内科	900,000	補 委	文部科学省科研費 基盤研究(C)
骨形成制御の細胞内シグナル伝達系におけるクロストークの解明と骨再生への応用	小池達也	リハビリテーション部	5,460,000	補 委	文部科学研究補助 金 基盤(B)

合計78

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Magn Reson Med Sci. 5(4):207-10 (2006年12月)	MR measurement of visceral fat: assessment of metabolic syndrome.	葭山 稔	第一内科
Heart.92(4):515-20. (2006年4月)	Microbubble destruction with ultrasound augments neovascularisation by bone marrow cell transplantation in rat hind limb ischaemia.	葭山 稔	第一内科
Am J Cardiol. 98(11):1531-7. (2006年12月)	Usefulness of automated quantitation of regional left ventricular wall motion by a novel method of two-dimensional echocardiographic tracking.	葭山 稔	第一内科
Stem Cells.25(3):612-20. (2007年3月)	Xenotransplantation of long-term-cultured swine bone marrow-derived mesenchymal stem cells.	葭山 稔	第一内科
Echocardiography.23(10):829-34. (2006年11月)	Acute hyperglycemia induced by oral glucose loading suppresses coronary microcirculation on transthoracic Doppler echocardiography in healthy young adults.	葭山 稔	第一内科
J Pharmacol Sci.102(1):96-102. (2006年9月)	Effects of treatment for diabetes mellitus on circulating vascular progenitor cells.	葭山 稔	第一内科
Echocardiography.23(8):658-65. (2006年9月)	Automated three-dimensional analysis of mitral annular dynamics in patients with myocardial infarction using automated mitral annular tracking method.	葭山 稔	第一内科
Echocardiography.23(8):642-9. (2006年9月)	Role of contrast-enhanced dobutamine stress echocardiography in predicting outcome in patients with known or suspected coronary artery disease.	葭山 稔	第一内科
Heart.92(9):1331-2. No abstract available. (2006年9月)	Usefulness of myocardial contrast echocardiography with nicorandil stress for the detection of coronary artery stenosis.	葭山 稔	第一内科
J Pharmacol Sci.101(4):344-9. (2006年8月)	The effects of HMG-CoA reductase inhibitor on vascular progenitor cells.	葭山 稔	第一内科
Am J Cardiol.98(3):298-302. (2006年8月)	Cut-off value of coronary flow velocity reserve by transthoracic Dopplerechocardiography for the assessment of significant donor left anterior descending artery stenosis in patients with spontaneously visible collaterals.	葭山 稔	第一内科
J Cardiovasc Electrophysiol.17(7):705-11. (2006年7月)	Risk stratification in patients with Brugada syndrome: analysis of daily fluctuations in 12-lead electrocardiogram (ECG) and signal-averaged electrocardiogram (SAECG).	葭山 稔	第一内科
Circ J.70(7):868-74. (2006年7月)	Quantitative assessment of left ventricular function during contrast-enhanced dobutamine stress echocardiography predicts future cardiac events in diabetic patients.	葭山 稔	第一内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Pharmacol Sci. 101(1):31-9. (2006年5月)	Effects of erythropoietin on cardiac remodeling after myocardial infarction.	葭山 稔	第一内科
Echocardiography. 23(4):279-86. (2006年4月)	Coronary flow velocity reserve measurement in three major coronary arteries using transthoracic Doppler echocardiography.	葭山 稔	第一内科
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 26(4):877-83. (2006年4月)	Persistent high levels of plasma oxidized low-density lipoprotein after acute myocardial infarction predict stent restenosis.	葭山 稔	第一内科
J Hypertens. 24(4):711-21 (2006年4月)	Expression of endothelin-converting enzyme, endothelin-1 and endothelin receptors at the site of percutaneous coronary intervention in humans.	葭山 稔	第一内科
J Rheum 33(4): 652-8. (2006年4月)	Paraarticular trabecular bone loss at the ultradistal radius and increased arterial stiffening in postmenopausal patients with rheumatoid arthritis.	稲葉 雅章	第二内科
Diabetes Care 2006; 29:1496-1500. (2006年7月)	Impact of Glycemic Control on Survival of Diabetic Patients on Chronic Regular Hemodialysis.	絵本 正憲	第二内科
Diabetes 2006; 55:2245-2255. (2006年8月)	Receptor for Advanced Glycation End Products Is Involved in Impaired Angiogenic Response in Diabetes.	小山 英則	第二内科
Ther Apher Dial ; 10(4):305-315. (2006年8月)	Plasma Lipoprotein Abnormalities in Hemodialysis Patients--Clinical Implications and Therapeutic Guidelines.	庄司 哲雄	第二内科
J Am Soc Nephrol ; 17:2245-2252. (2006年7月)	Regional Arterial Stiffness in Patients with Type 2 Diabetes and Chronic Kidney Disease.	庄司 哲雄	第二内科
J Rheum ; 33(4):652-658. (2006年4月)	Paraarticular Trabecular Bone Loss at the Ultradistal Radius and Increased Arterial Stiffening in Postmenopausal Patients with Rheumatoid Arthritis.	稲葉 雅章	第二内科
J Ren Nutr 2006; 16(3); 241-244. (2006年6月)	Body Composition and Cardiovascular Risk in Hemodialysis Patients.	西沢 良記	第二内科
Clinical Endocrinology 66:246-250, (2006年9月)	Association of serum fetuin-A with carotid arterial stiffness.	森 克仁	第二内科
J Vasc Res 44:61-66, (2006年10月)	Association between Plasma Angiotensin-Like Protein 3 and Arterial Wall Thickness in Healthy Subjects.	庄司 哲雄	第二内科
J Am Soc Nephrol 18:896-903, (2006年12月)	Glycated Albumin Is Better Glycemic Indicator than Glycated Hemoglobin Values in Hemodialysis Patients with Diabetes: Effort of Anemia and Erythropoietin Injection	稲葉 雅章	第二内科
J Rheum 34(2): 290-295, (2006年10月)	Independent Association of Increased Trunk Fat With Increased Arterial Stiffening in Postmenopausal Patient with Rheumatoid Arthritis.	稲葉 雅章	第二内科
Nephrol Dial Transplant :1-13, (2006年12月)	Significance of time-course changes of serum bone markers after parathyroidectomy in patients with uremic hyperparathyroidism.	稲葉 雅章	第二内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Microvasc Res 73:29-34, (2006年8月)	Neutrophil-activating activity and platelet-activating factor synthesis in cytokine-stimulated endothelial cells: Reduced activity in growth-arrested cells.	西沢 良記	第二内科
Atheroscler Thromb Vasc Biol 27:147-153, (2006年9月)	Low Circulating Endogeneous Secretory Receptor for AGEs Predicts Cardiovascular Mortality in Patients With End-Stage Renal Disease.	小山 英則	第二内科
Clin Endocrinol (Oxf) 66, 246-250, (2006年9月)	Association of serum fetuin-A with carotid arterial atiffness.	森 克仁	第二内科
J Am Soc Nephrol 18: 896-903, (2006年12月)	Glycated albumin is a better glycemic indicator than glycated hemoglobin values in hemodialysis patients with daibetes: Effect of anemia and erythropoietin injection.	稲葉 雅章	第二内科
J Rheum 34(2), 290-295, (2006年10月)	Independent association of increased trunk fat with increased arterial stiffening postmenopausal patients with rheumatoid arthritis.	稲葉 雅章	第二内科
J Bone Miner Metab 25:74-79, (2007年1月)	Annual change in bone mineral density in predialysis patients with chronic renal failure: significance of a dearease in serum 1,25-dihydroxy-vitamin D.	石村 栄治	第二内科
Am J Kidney Dis 49(3); 417-425, (2006年12月)	Presence of abdominal aortic calcification is significantly associated with all-cause and cardiovascular mortality in maintenance hemodialysis patients.	石村 栄治	第二内科
Biomed Pharmacother 61; 142-147, (2007年1月)	Influence of nutritional status on serum large N-truncated PTH, but not PYH(1-84) in hemodialysis patoents.	稲葉 雅章	第二内科
J Am Soc Nephrol 17:2245-2252, (2006年7月)	Regional arterial stiffness in patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease.	庄司 哲雄	第二内科
Kidney Int 70:549-556, (2006年11月)	Body fat mass and lean mass as predictors of survival in hemodialysis patients	庄司 哲雄	第二内科
Metabolism 55: 587-592, (2006年5月)	The association of plasma adiponectin level with carotid arterial stiffness.	絵本 正憲	第二内科
World J Gastroenterol.;13(9):1453-7. (2007年3月)	A case of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma forming multiple lymphomatous polyposis in the small intestine.	富永 和作	第三内科
Aliment Pharmacol Ther. 24 Suppl 4:49-57. (2006年12月)	Interactions between the grading of gastric atrophy associated with Helicobacter pylori infection and the severity of clinical symptoms and delay in gastric emptying in patients with functional dyspepsia.	富永 和作	第三内科
J Exp Clin Cancer Res.25(2):283-5 (2006年6月)	Complete regression of low-grade mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma in the gastric stump after eradication of Helicobacter pylori.	富永 和作	第三内科
Digestion 74(2):126-127 (2007年1月)	Duodenal cancer diagnosed by capsule endoscopy and double balloon enteroscopy in a patient with hereditary nonpolyposis colorectal cancer	山上 博一	第三内科
Alimentary Phrmacology and Therapeutics symposium series 2:147-152 (2006年12月)	Efficacy and endoscopic prediction of cytapheresis therapy in patients with refractory and steroid-dependent ulcerative colitis	渡辺 憲治	第三内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medicina 43:1306-1309 (2006年8月)	カプセル内視鏡の適応と現況	渡辺 憲治	第三内科
医学のあゆみ 220:229-232 (2007年1月)	【カプセル内視鏡-小腸用カプセル内視鏡検査の現況】炎症性腸疾患の診断	渡辺 憲治	第三内科
臨床消化器内科 22:317-323 (2007年3月)	カプセル内視鏡 vs ダブルバルーン内視鏡	渡辺 憲治	第三内科
早期大腸癌 11:149-153 (2007年3月)	dysplasia, colitic cancerの診断	渡辺 憲治	第三内科
Gut. 55(4):450-6. (2006年4月)	Roles of cyclooxygenase 2 and microsomal prostaglandin E synthase 1 in rat acid reflux oesophagitis.	藤原 靖弘	第三内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.290(4):G665-73. (2006年4月)	Roles of epidermal growth factor and Na ⁺ /H ⁺ exchanger-1 in esophageal epithelial defense against acid-induced injury.	藤原 靖弘	第三内科
Am J Pathol.;170(3):967-80 (2007年3月)	Erythrophagocytosis by liver macrophages (Kupffer cells) promotes oxidative stress, inflammation, and fibrosis in a rabbit model of steatohepatitis: implications for the pathogenesis of human nonalcoholic steatohepatitis.	河田 則文	第三内科
Liver Int.27(2):186-91 (2007年3月)	Development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C who had a sustained virological response to interferon therapy: a multicenter, retrospective cohort study of 1124 patients.	武田 正	第三内科
Liver Int. 27(1):95-100 (2007年2月)	Thiopurine S-methyltransferase gene polymorphism in Japanese patients with autoimmune liver diseases.	田守 昭博	第三内科
Dev Dyn.236(2):461-72 (2007年2月)	Rho kinase inhibitor Y27632 affects initial heart myofibrillogenesis in cultured chick blastoderm.	河田 則文	第三内科
Gastrointest Endosc. 65(1):171-3 (2007年1月)	Laparoscopic observation of 2 cases of nodular regenerative hyperplasia of the liver.	坂口 浩樹	第三内科
Histochem Cell Biol. 127(2):161-74 (2007年2月)	Identification of vitamin A-free cells in a stellate cell-enriched fraction of normal rat liver as myofibroblasts.	河田 則文	第三内科
Gut. ;56(3):396-404 (2007年3月)	Targeted and regulable expression of transgenes in hepatic stellate cells and myofibroblasts in culture and in vivo using an adenoviral Cre/loxP system to antagonise hepatic fibrosis.	河田 則文	第三内科
Hepatol Res. 36(3):201-8. (2006年11月)	Coffee consumption and reduced risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic type C liver disease: A case-control study.	田守 昭博	第三内科
Gut.55(8):1073-4 (2006年8月)	Human hepatic stellate cells are resistant to apoptosis: implications for human fibrogenic liver disease.	河田 則文	第三内科
Nippon Rinsho. ;64(6):1043-7 (2006年6月)	[Rabbit model] for the study of human NASH]	河田 則文	第三内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastroenterology. 130(6):1917-9 (2006年5月)	Cancer serum proteomics in gastroenterology.	河田 則文	第三内科
Microb Pathog.40(4):171-6 (2006年4月)	Macrophage scavenger receptor down-regulates mycobacterial cord factor-induced proinflammatory cytokine production by alveolar and hepatic macrophages.	河田 則文	第三内科
Hepatology Res. :37(2):94-100 (2007年2月)	Effects of lamivudine on outcome after liver resection for hepatocellular carcinoma in patients with active replication of hepatitis B virus.	坂口 浩樹	第三内科
World J Gastroenterol. 12(48):7768-73. (2006年12月)	Usefulness of noninvasive transient elastography for assessment of liver fibrosis stage in chronic hepatitis C.	武田 正	第三内科
World J Gastroenterol. 12(33):5408-11. (2006年9月)	Successful treatment of giant rectal varices by modified percutaneous transhepatic obliteration with sclerosant: Report of a case.	田守 昭博	第三内科
Hepatology Res.;36(3):195-200. (2006年11月)	Influence of interferon therapy on outcome after surgery for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	田守 昭博	第三内科
内科99巻1号:170-172 (2007年1月)	GABA含有乳酸菌飲料に起因すると考えられる薬物性肝障害の1例	河田 則文	第三内科
Dig Dis Sci.52(1):240-7. (2007年1月)	Rebamipide inhibits gastric cancer cell growth.	谷川 徹也	第三内科
Brain Research. 1081: 34-43 (2006年4月)	Targeted gene therapy toward astrocytoma using a Cre/loxP-based adenovirus system.	田中あけみ	小児科
Kidney International. 70(3):471-6 (2006年4月)	Decrease in tetrahydrobiopterin as a possible cause of nephropathy in type II diabetic rats.	新宅 治夫	小児科
日本小児科学会雑誌 110: 945-950 (2006年7月)	Hurler病の1症例における酵素補充療法の効果。	田中 あけみ	小児科
脳と発達 38(6):443-447 (2006年6月)	前障と海馬に病変を認めた非ヘルペス性急性辺縁系脳炎の小児例	山野 恒一	小児科
Brain Development. 29:2-8 (2007年1月)	Kainic acid dose affects delayed cell death mechanism after status epilepticus	山野 恒一	小児科
Journal of Autoimmune. 26(2):127-32 (2006年9月)	A sensitive radioimmunoassay of insulin autoantibody: reduction of non-specific binding of [¹²⁵ I]insulin.	川村 智行	小児科
American Journal of Dermatopathology 28(2):158-161 (2006年4月)	Reticulated acanthoma with sebaceous differentiation	深井 和吉	皮膚科
Journal of Cutaneous Medicine and Surgery (3):131-135 (2006年5月)	Drug hypersensitivity syndrome caused by minocycline	鶴田 大輔	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Dermatology 45(9):1098-1099 (2006年9月)	Successful treatment of a widespread cutaneous Mycobacterium fortuitum infection with levofloxacin	鶴田 大輔	皮膚科
Dermatology 213(3):256-258 (2006年10月)	Angioma serpiginosum with extensive lesions associated with retinal vein occlusion	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 33(11):823-824 (2006年11月)	Yellow urticaria associated with hepatitis type-C liver cirrhosis	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatological Science 45(1):31-36 (2007年1月)	Deletion of distal promoter of VCXA in a patient with X-linked ichthyosis associated with borderline mental retardation	深井 和吉	皮膚科
Journal of Histochemistry and cytochemistry 55(1):43-55 (2007年1月)	Spatial and temporal control of laminin-332 (5) and -511 (10) expression during induction of anagen hair growth	鶴田 大輔	皮膚科
Clinical and Experimental Dermatology 32(1):43-44 (2007年1月)	Bilateral segmental neurofibromatosis with gastric carcinoma	深井 和吉	皮膚科
Journal of Vascular and Interventional Radiology (2006年7月)	An Animal Model for Type II Endoleaks with Use of Tsuzumi Drum-shaped Stent-Graft	中村健治	放射線科
AJR (2006年4月)	Bilateral Primary Fallopian Tube Carcinoma: Findings on Sequential MRI	井上佑一	放射線科
Radiat Med (2006年8月)	Subpial schwannoma of the cervical spinal cord mimicking an intramedullary tumor	井上佑一	放射線科
Int J Cancer 120: 686-693 (2007年2月)	Selective cyclooxygenase-2 inhibitor downregulates the paracrine epithelial-mesenchymal interactions of growth in scirrhous gastric carcinoma. Int J Cancer 120: 686-693, 2007.	平川弘聖	第一外科
Cancer Sci 97: 938-944 (2006年9月)	Synergic antiproliferative effect of DNA methyltransferase inhibitor in combination with anticancer drugs in gastric carcinoma.	平川弘聖	第一外科
Oncol Rep 16: 563-568 (2006年9月)	Histone deacetylase inhibitor, trichostatin A, increases the chemosensitivity of anticancer drugs in gastric cancer cell lines.	平川弘聖	第一外科
Eur J Cancer 42: 2397-2403 (2006年9月)	Decreased expression of the adhesion molecule desmoglein-2 is associated with diffuse-type gastric carcinoma.	平川弘聖	第一外科
Cancer Lett 244: 247-251 (2006年12月)	A synergic inhibitory-effect of combination with selective cyclooxygenase-2 inhibitor and S-1 on the peritoneal metastasis for scirrhous gastric cancer cells.	平川弘聖	第一外科
Hepatogastroenterology 53: 619-623 (2006年7月)	Helicobacter pylori infection, but not mucosal atrophy, significantly affects serum pepsinogen level after gastric cancer surgery.	平川弘聖	第一外科
Anticancer Res 26: 4653-4658 (2006年11月)	Expression of genes for 5-FU-metabolizing enzymes and response to irinotecan plus 5-FU-leucovorin in colorectal cancer.	平川弘聖	第一外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Oncol (R Coll Radiol) 18: 678-683 (2006年11月)	Moderate neutropenia with S-1 plus low-dose cisplatin may predict a more favourable prognosis in advanced gastric cancer.	平川弘聖	第一外科
J Exp Clin Cancer Res 25: 195-200 (2006年6月)	Transplatin, a cisplatin trans-isomer, may enhance the anticancer effect of 5-fluorouracil.	平川弘聖	第一外科
Gastroenterology 131: 1530-1541 (2006年11月)	A novel molecular targeting compound as K-samII/FGF-R2 phosphorylation inhibitor, Ki23057, for Scirrhus gastric cancer.	平川弘聖	第一外科
Endocr J 53: 461-466 (2006年8月)	Laparoscopic adrenalectomy on a patient with primary aldosteronism during pregnancy.	平川弘聖	第一外科
J Exp Clin Cancer Res 25: 283-285 (2006年6月)	Complete regression of low-grade mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma in the gastric stump after eradication of Helicobacter pylori.	平川弘聖	第一外科
Clin Cancer Res 12: 4925-4932 (2006年8月)	Antitumor effect of trastuzumab for pancreatic cancer with high HER-2 expression and enhancement of effect by combined therapy with gemcitabine.	平川弘聖	第一外科
Inflamm Bowel Dis 12: 727-735 (2006年8月)	Close association between activated platelets and neutrophils in the active phase of ulcerative colitis in humans.	平川弘聖	第一外科
医学のあゆみ 別冊消化器疾患Ver.3 Page550-553 (2006年4月)	【消化器疾患 state of arts 消化管(食道・胃・腸)】 主要疾患 現況・病態・診断・治療 胃癌 スキルス 胃癌 最新の動向と今後の展望	平川弘聖	第一外科
消化器外科 29巻5号 Page644-651 (2006年4月)	【クリニカルパスに基づいた術後管理のすべて】胃の手術 内視鏡下胃粘膜切除術	平川弘聖	第一外科
消化器外科 29巻4号 Page411-413 (2006年4月)	【外科研修医マニュアル】術前・術後に必要な処置 皮内反応	平川弘聖	第一外科
外科 68巻4号 Page476-479 (2006年4月)	腋窩副乳癌の1例	平川弘聖	第一外科
外科 68巻5号 Page553-558 (2006年5月)	【実践 インフォームド・コンセント】急性虫垂炎手術のインフォームド・コンセント	平川弘聖	第一外科
臨床腫瘍プラクティス 2巻2号 Page160-162 (2006年5月)	【乳がん患者への適切な対応】原発性乳癌の治療はこう行う 乳房切除術を行う場合	平川弘聖	第一外科
日本消化器外科学会雑誌 39巻5号 Page608-613 (2006年5月)	結腸-十二指腸瘻を形成したクローン病の2例	平川弘聖	第一外科
内分泌外科 23巻2号 Page115-118 (2006年6月)	12年間の経過中にアルドステロン,コルチゾールの産生を伴うようになった副腎偶発腫瘍の1例	平川弘聖	第一外科
癌と化学療法 33巻Suppl.1 Page68-74 (2006年6月)	【S-1の基礎と臨床】S-1+低用量CDDP療法	平川弘聖	第一外科
日本臨床 別冊内分泌症候群2 Page205-208 (2006年6月)	【内分泌症候群(第2版)・その他の内分泌疾患を含めて】副甲状腺・骨・ミネラル代謝 副甲状腺の発生異常[数と位置]	平川弘聖	第一外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床外科 61巻6号 Page733-740 (2006年6月)	【癌の播種性病変の病態と診断・治療】 腹膜播種性転移の病態メカニズムと分子標的治療	平川弘聖	第一外科
医学のあゆみ 217巻12号 Page1139-1140 (2006年6月)	脈管増生度とリンパ管侵襲からみた乳癌再発予測免疫組織学的検討	平川弘聖	第一外科
外科治療 95巻1号 Page103-108 (2006年7月)	進行・再発胃癌に対する化学療法の進歩	平川弘聖	第一外科
外科治療 95巻1号 Page61-68 (2006年7月)	胃全摘術後全器械吻合によるRoux-en-Y再建法～ST(ストリップスルー)法～	平川弘聖	第一外科
外科治療 95巻1号 Page61-68 (2006年7月)	手術手技 胃全摘術後全器械吻合によるRoux-en-Y再建法 ST(ストリップスルー)法	平川弘聖	第一外科
外科と代謝・栄養 40巻4号 Page183-190 (2006年8月)	胃癌術後の血清亜鉛濃度について	平川弘聖	第一外科
臨床外科 61巻9号 Page1159-1164 (2006年9月)	【消化器外科医に必要な低侵襲治療の知識】 消化管狭窄に対するステント留置	平川弘聖	第一外科
分子消化器病 3巻3号 Page245-250 (2006年9月)	【消化器疾患における線維化の関与を探る】 スキルス胃癌における線維化は癌の進展にどのようにかわるのか?	平川弘聖	第一外科
日本臨床外科学会雑誌 67巻10号 Page2461-2465 (2006年10月)	両側副腎褐色細胞腫に対して腹腔鏡下両側副腎部分切除術を施行した1例	平川弘聖	第一外科
日本臨床外科学会雑誌 67巻10号 Page2453-2456 (2006年10月)	膵後面後腹膜リンパ管筋腫の1例	平川弘聖	第一外科
日本臨床外科学会雑誌 67巻11号 Page2613-2616 (2006年11月)	膵胆管分離開口に合併したVater乳頭部癌の1手術例	平川弘聖	第一外科
癌と化学療法 33巻11号 Page1637-1640 (2006年11月)	Weekly Paclitaxel療法により癌性腹水が消失した進行胃癌の1例	平川弘聖	第一外科
内分泌外科 23巻4号 Page244-248 (2006年12月)	【甲状腺乳頭癌に対する治療ガイドラインをどう考えるか】 甲状腺乳頭癌に対して片葉切除・D2リンパ節郭清を標準術式とすることの妥当性	平川弘聖	第一外科
G.I.Research 14巻6号 Page560-565 (2006年12月)	【マトリックスメタロプロテアーゼの最新知見 癌増殖・浸潤・転移を中心として】 大腸癌肝転移の機序の解明とマトリックスメタロプロテアーゼの関与	平川弘聖	第一外科
外科治療 96巻3号 Page281-288 (2007年3月)	術前術後管理 ベッドサイドに必要な外科基本手技と管理指針 胃ゾンデ・イレウス管の挿入と管理	平川弘聖	第一外科
日本医事新報 4324号 Page126-127 (2007年3月)	膵癌の転移臓器順位	平川弘聖	第一外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
外科治療 96巻 Page122-126 (2007年3月)	胃・十二指腸の腫瘍性疾患同時性多発胃癌	平川弘聖	第一外科
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 5, 413-417. (2006年5月)	In situ bilateral skeletonization international thoracic arterial grafting for left-side myocardial revascularization using an off-pump technique.	末廣 茂文	第二外科
Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 54(5), 185-186. (2006年5月)	Thoracoscopic surgery in the esophageal field.	大杉 治司	第二外科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 12(3), 157-158. (2006年6月)	Valve prosthesis-patient mismatch:clinical implications in japanese patients.	末廣 茂文	第二外科
Journal of Hepatobiliary Pancreatic surgery. 13(3), 245-251. (2006年6月)	Clinicopathological implications of immunohistochemically demonstrated mucin core protein expression in hepatocellular carcinoma.	久保正二	第二外科
Osaka City Medical Journal. 52(1), 47-53. (2006年6月)	Surgical indications for spontaneous pneumothorax in patients over 50 years of age.	西山典利	第二外科
Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 54(7), 301-313. (2006年7月)	Homemade endvasacular treatment of postoperative aortobronchial fistulas.	末廣 茂文	第二外科
Kyobu Geka. 59(8), 776- 780. (2006年7月)	Thoracoscopic approach for esophageal malignancies.	大杉 治司	第二外科
Hepatogastroenterology. 53(7), 571-575. (2006年7月)	Bowel injury associated with liver surgery for hepatocellular carcinoma.	久保正二	第二外科
Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 132(1), 196-197. (2006年7月)	Thymectomy for paraneoplastic stiff-person syndrome associated with invasive thymoma.	岩田 隆	第二外科
Journal of Surgical Research. 134(2), 285-291. (2006年8月)	Recovery of hepatic function determined by cytochrome P450-dependent drug metabolism lags after compensatory hepatic volume changes after portal vein ligation in rats.	竹村茂一	第二外科
Chirurgia Toracia Videoassistita. 114, 2163- 2169. (2006年9月)	Esofagectomia videotrascopica per cancro.	大杉 治司	第二外科
Osaka City Medical Journal 52, 9-19. (2006年9月)	Activation of mitogen-activated protein kinases, activator protein-1, and nuclear factor- κ B during acute rejection after heterotopic heart transplantation in rats.	平居 秀和	第二外科
Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 54(10), 444-447. (2006年10月)	Multiple thoracoabdominal gunshot wounds with complicated trajectories.	岩田 隆	第二外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 53(12), 661-664. (2006年12月)	Successful surgery treatment of a mycotic right coronary artery aneurysm complicated by a fistula to the right atrium.	末廣 茂文	第二外科
Osaka City Medical Journal. 52(2), 79-82. (2006年12月)	Splenic metastasis of hepatocellular carcinoma	久保正二	第二外科
Annals of Nuclear Medicine 20(10), 699-703. (2006年12月)	Distinguishing benign from malignant gallbladderwall thickening using FDG-PET	久保正二	第二外科
Journal of Gastroenterology and Hepatology. 21(12), 1859. (2006年12月)	Education and imaging. Hepatobiliary and pancreatic: cholangiocarcinoma in a double bile duct.	久保正二	第二外科
Annals of Thoracic Surgery. 82(6), 2266-2268. (2006年12月)	Thymic small cell carcinoma associated with pulmonary squamous cell carcinoma.	岩田 隆	第二外科
Journal of Pharmacological Sciences. 103(1), 33-39. (2007年1月)	Nicorandil elevates tissue cGMP levels in a nitric oxide-independent manner.	竹村茂一	第二外科
Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 54(6), 263-266. (2007年1月)	Resected case of synovial sarcoma in the pleural cavity.	岩田 隆	第二外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 55(1), 26-28. (2007年1月)	Thymolipoma associated with myasthenia gravis.	岩田 隆	第二外科
The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics. 320(1), 535-543. (2007年2月)	Calorie restriction improves cardiovascular risk factors via reduction of mitochondrial reactive oxygen species in type II diabetic rats.	竹村茂一	第二外科
Hepatology Research. 37(2), 94-100. (2007年2月)	Effect of lamibudine on outcome after liver resection for hepatocellular carcinoma in patients with active replication of hepatitis B virus.	久保正二	第二外科
Drug Metabolism and Pharmacokinetics. 22(1), 15-19. (2007年2月)	Cytochrome P450 is responsible for nitric oxide generation from no-aspirin and other organic nitrates.	竹村茂一	第二外科
Surgery Today. 37(4), 285-290. (2007年3月)	Surgical treatment for hepatocellular carcinoma detected after successful interferon therapy.	久保正二	第二外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 13(1), 44-46. (2007年2月)	Thymic tuberculosis preoperatively evaluated with thallium 201 spect: two resected cases.	岩田 隆	第二外科
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 13(1), 40-43. (2007年2月)	Biphasic pulmonary blastoma: report of a case.	岩田 隆	第二外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 55(3), 113-118. (2007年3月)	Early recurrence of completely resected N2-positive non-small-cell lung cancer.	西山典利	第二外科
Neurol India. 54(3):306-7. (2006年9月)	An Intradural Skull Base Chordoma Presenting with Acute Intratumoral Hemorrhage.	大畑 建治	脳神経外科
Neurol India.54(3):328. (2006年9月)	Sudden appearance of transdural anastomosis from middle meningeal artery to superior cerebellar artery during preoperative embolization of meningioma..	大畑 建治	脳神経外科
Neurol India 54(4): 437-439 (2006年12月)	Schwannoma of the oculomotor nerve.	大畑 建治	脳神経外科
J Clin Neurosci 14(1), 65-68 (2007年1月)	Atypical spinal dural arteriovenous with supply from lateral sacral artery: case report and review	西尾 明正	脳神経外科
Neurol Med Chir 46(4):182-5. (2006年4月)	Effectiveness of cerebral hemispherotomy for improving behavioral disorders associated with intractable post-traumatic seizures.	森野 道晴	脳神経外科
Epilepsy Behav.9(1):95-100. (2006年5月)	Comparison of neuropsychological outcomes after selective amygdalohippocampectomy versus anterior temporal lobectomy	森野 道晴	脳神経外科
J Clin Neurosci.14(2):171-5. (2006年11月)	Transventricular hemispherotomy for surgical treatment of intractable epilepsy.	森野 道晴	脳神経外科
Skull base 85-93 (2006年5月)	Surgical management of the petroclival chordomas. Report of Eight Cases.	高見 俊宏	脳神経外科
Neurological Research 28(8):802-806 (2006年12月)	The role of spinal tissue scarring in the pathogenesis of progressive post-traumatic myelomalacia.	高見 俊宏	脳神経外科
脳神経外科 35(2) 151-154 (2007年2月)	外減圧後頭蓋形成術における癒着防止吸収性バリア(セプラフィルムOR)の有用性	一ノ瀬 努	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Orthop Relat Res. (2007年3月)	Reconstruction of Bone Defects Using rhBMP-2-coated Devitalized Bone.	高岡 邦夫	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg. (2007年3月)	Calcaneal apophyseal avulsion fracture.	高岡 邦夫	整形外科
J Bone Miner Metab. 25:130-7, (2007年2月)	Clinical effect of bisphosphonate and vitamin D on osteoporosis: reappraisal of a multicenter double-blind clinical trial comparing etidronate and alfacalcidol.	高岡 邦夫	整形外科
J Hand Surg. 31:1454-60, (2006年11月)	Volar dislocation of the extensor carpi ulnaris tendon on magnetic resonance imaging is associated with extensor digitorum communis tendon rupture in rheumatoid wrists.	高岡 邦夫	整形外科
J Neurosurg Spine. 5:461-7, (2006年11月)	Endoscopic vertebroplasty for the treatment of chronic vertebral compression fracture. Technical note.	高岡 邦夫	整形外科
Biomaterials. 27:4934-40, (2006年10月)	Repair of long intercalated rib defects using porous beta-tricalcium phosphate cylinders containing recombinant human bone morphogenetic protein-2 in dogs.	高岡 邦夫	整形外科
Clin Pharmacol Ther. 80:396-402, (2006年10月)	Low hepatic cytochrome P450 3A activity is a risk for corticosteroid-induced osteonecrosis.	高岡 邦夫	整形外科
J Bone Joint Surg Br. 88:1327-30, (2006年10月)	Evaluation of the flexion gap by axial radiography of the distal femur.	高岡 邦夫	整形外科
J Orthop Sci.11:505-11, (2006年10月)	Accelerated repair of a bone defect with a synthetic biodegradable bone-inducing implant.	高岡 邦夫	整形外科
J Biol Chem.281:23246-53, (2006年6月)	Heparin potentiates the in vivo ectopic bone formation induced by bone morphogenetic protein-2.	高岡 邦夫	整形外科
Endocrinology. 147:3366-74, (2006年4月)	Osteoblasts provide a suitable microenvironment for the action of receptor activator of nuclear factor- κ B ligand.	高岡 邦夫	整形外科
J Orthop Sci. 11:375-9, (2006年7月)	Use of glycyrrhizin in prevention of tissue damage caused by ischemia-reperfusion in rabbit hind limbs.	高岡 邦夫	整形外科
Eur Spine J. 15:577-82, (2006年5月)	Objective assessment of reduced invasiveness in MED. Compared with conventional one-level laminotomy.	高岡 邦夫	整形外科
J Bone Joint Surgery - Br 88: 1327-30, (2006年10月)	Evaluation of the flexion gap by axial radiography of the distal femur.	小林 章郎	整形外科
Hip Joint 32: 509-512, (2006年10月)	Well-functioning THA患者におけるHighly cross-linked PE摩耗粉の特徴	小林 章郎	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
関節外科 25巻10月増刊 195-202 (2006年10月)	【スポーツ医学の最近の話題と展望】身体障害者のスポーツ 冬季競技	小林 章郎	整形外科
日本骨・関節感染症学会 雑誌 20 97-100 (2006年12月)	臨床使用を目的としたテイコプラニン含有骨セメントの基礎的研究 バンコマイシンとの比較	小林 章郎	整形外科
日本人工関節学会誌 36 100-101 (2006年12月)	THA術前計画 3DテンプレートシステムHip-opの有用性の検討	小林 章郎	整形外科
日本人工関節学会誌 36 264-265 (2006年12月)	TKA 高齢女性において下肢Mechanical Axisはどこを通過するか	小林 章郎	整形外科
日本人工関節学会誌 36 268-269 (2006年12月)	TKA TKA後のPatellar clunk syndromeの発生要因	小林 章郎	整形外科
Urology View 4(2)76-80 (2006年4月)	高齢者の慢性腎不全の治療: QOL維持における問題点は何か	長沼 俊秀	泌尿器科
泌尿器科紀要 52(6)491-494 (2006年6月)	再燃前立腺癌の骨転移に対するBisphosphonateの効果	田中智章	泌尿器科
泌尿器科紀要 52(6)491-494 (2006年6月)	Modified extravesical ureteroneocystostomy for completely duplicated ureters in renal transplantation.	内田 潤次	泌尿器科
大阪透析研究会会誌 25(1)7-13 (2007年3月)	日本と世界の透析療法の現況	武本佳昭	泌尿器科
日本透析医学会雑誌 40(3)226-228 (2007年3月)	手根幹症候群に対する外科的治療 特に直視下手根幹解放&腱滑膜切除術の成績 -第51回日本透析医学会ワークショップより-	土田健司	泌尿器科
Int J Gynecol Cancer. 2007;17(1):159-63. (2007年1月)	Phase II study of irinotecan plus doxorubicin for early recurrent or platinum-refractory ovarian cancer: interim analysis.	石河 修	産婦人科
Int J Tuberc Lung Dis. 2007;11(1):103-9. (2007年1月)	Fat and fish intake and asthma in Japanese women: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study.	石河 修	産婦人科
Osaka City Med J. 2006;52(1):39-45. (2006年6月)	Effects of different sampling points on evaluation of fetal descending aortic flow.	中井 祐一郎	産婦人科
Int J Gynecol Cancer. 2006;16(3):1358-63. (2006年5月)	Clinical outcomes of uterine sarcomas: results from 14 years worth of experience in the Kinki district in Japan (1990-2003).	石河 修	産婦人科
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌22巻2号 Page442-445 (2007年3月)	当科関連施設における過去5年間の鏡視下手術の検討	延山 裕之	産婦人科
血液診療4巻2号 Page46-48 (2007年2月)	妊娠により重症化した難治性特発性血小板減少性紫斑病に対して摘脾が有効であった1例	橘 大介	産婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産婦人科の進歩(0370-8446)58巻4号 Page397-398 (2006年11月)	当科にて経験した顆粒膜細胞腫の検討	松本 佳也	産婦人科
産婦人科の進歩(0370-8446)58巻2号 Page202-204 (2006年5月)	Microwave endometrial ablationが粘膜下筋腫に及ぼす影響	金岡 靖	産婦人科
臨床眼科 60(4)477-482 (2006年4月)	ポリープ状脈絡膜血管症に対するトリアムシロン併用光線力学治療の短期成績	安宅伸介	眼科
臨床眼科 60(4)487-492 (2006年4月)	転移性脈絡膜腫瘍に対して放射線療法を行った1例	村澤牧子	眼科
臨床眼科 60(4)565-569 (2006年4月)	外傷既往の固定内斜視に対する上直筋外直筋全筋腹通糸結紮法を施行した1例	白木邦彦	眼科
あたらしい眼科 23(7)957-960 (2006年8月)	緑内障を併発した毛様体黒色細胞腫の1例	白木邦彦	眼科
臨床眼科 60(9)1579-1583 (2006年10月)	トリアムシロン硝子体内投与を併用した光線力学療法 の短期治療成績	河野剛也	眼科
Osaka City Medical Journal Vol.52 No,2 83 (2006年12月)	A Case of Multiple Evanescent White Dot Syndrome Treated by Steroid Pulse Therapy	白木邦彦	眼科
J Glaucoma Volume 16 No,2 201-204 (2007年3月)	Relation Between Office Intraocular Pressure and 24-hour Intraocular Pressure in Primary Open- angle Glaucoma Treated With a Combination of Topical Antiglaucoma Eye Drops	白木邦彦	眼科
Acta Otolaryngol :127.221-224. (2007年2月)	Disregard of cholesteatoma in congenital aural stenosis.	山根英雄	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 126: 557-560, (2006年5月)	Carotid artery pseudoaneurysm as a rare sequela of surgery for laryngeal cancer	井口 広義	耳鼻咽喉科
Oral Oncol 42: 391-397, (2006年4月)	Outcome of preoperative concurrent chemoradiotherapy and surgery for resectable lingual squamous cell carcinoma greater than 3 cm: the possibility of less extensive surgery	井口 広義	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol. 126(8):834-8, (2006年8月)	Effects of cigarettes and alcohol consumption in benign paroxysmal positioning vertigo.	角南 貴司子	耳鼻咽喉科
J Neuropathol Exp Neurol. 65(10):1022-30, (2006年10月)	Latency of alpha-herpes viruses is accompanied by a chronic inflammation in human trigeminal ganglia but not in dorsal root ganglia.	角南 貴司子	耳鼻咽喉科
Audiology Japan 49(5) : 577-578, (2006年9月)	耳鳴に対するTRTの治療成績と治療効果の指標に 関する検討	坂下 哲史	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anesthesia and Analgesia 102 (4) 1096-1102 (2006年4月)	Nitrous oxide induces paradoxical electroencephalographic changes following tracheal intubation during isoflurane and sevoflurane anesthesia	小田 裕	麻酔科
Clinical Pharmacology and Therapeutics 80 (4) 396-402 (2006年10月)	Low hepatic cytochrome P450 3A activity is a risk for corticosteroid-induced osteonerosis	小田 裕	麻酔科
Hepato Res 36(8)201-208 (2006年8月)	Coffee consumption and reduced risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic type C liver disease: A case-control study	塩見 進	核医学
World J Nucl Med 5(10)368-371 (2006年10月)	Recent advance in gastric motility	塩見 進	核医学
World J Gastroenterol 12(12)7768-7773 (2006年12月)	Usefulness of noninvasive transient elastography for assessment of liver fibrosis stage in chronic hepatitis C	塩見 進	核医学
Aliment Pharmacol Ther 2(1)49-57 (2006年12月)	Interactions between the grading of gastric atrophy associated with Helicobacter Pylori infection and the severity of clinical symptoms and delay in gastric emptying in patients with functional dyspepsia	塩見 進	核医学
Liver Int 25(1)95-100 (2007年1月)	Thiopurine S-methyltransferase gene polymorphism in japanese patients with autoimmune liver disease	塩見 進	核医学
J Interfer Cytokin Res 27(3)201-207 (2007年3月)	Lamivudine and IFN-beta sequential therapy in HBe antigen-positive patients with chronic hepatitis B virus genotype C infection	塩見 進	核医学
医学と薬学 55, 3: 443-458, (2006年5月)	新規血中酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ骨型インザイム(TRACP-5b)測定キットオステオリンク「TRAP-5b」のりんそう敵検討」	三木隆己	老年内科・神経内科
Eur J Endocrinol 154(1) :93-99, (2006年5月)	Regulation of plasma fibroblast growth factor 23 by calcium in primary hyperparathyroidism	三木隆己	老年内科・神経内科
Kidney Int. 70 (3): 549 - 556, (2006年5月)	Body fat mass and lean mass as predictors of survival in hemodialysis patients	三木隆己	老年内科・神経内科
Nephron Clin Pract : c108-114, (2006年5月)	Serum levels of 1-84 and 7-84 parathyroid hormone in predialysis patients with chronic renal failure mesured by the intact and bio-PTH assay.	三木隆己	老年内科・神経内科
J Bone Miner Metab 24:300-306, (2006年5月)	Direct in vitro evidence of the suppressive effect of cinacalcet HCL on parathyroid hormone secretion in human parathyroid cells with pathologically reduced calcium-sensing receptor levels.	三木隆己	老年内科・神経内科
Life Sci 78 (20) : 2295-2301 (2006年5月)	Expression of FGF23 is correlated with serum phosphate levels in isolated fibrous dysplasia	三木隆己	老年内科・神経内科
American Journal of Hematology 817: 525-531 (2006年7月)	Risk factor analysis for thrombotic microangiopathy after reduced intensity or myeloablative allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	中前博久	血液内科
臨床血液 47(12): 1539-1543 (2006年12月)	臍帯血移植後、右基底核にmass effectを呈する cyclosporine脳症を発症した骨髓異形成症候群	山根孝久	血液内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acta Haematologica 117(4): 205-210 (2007年1月)	Two cases of Ampulla (Takotsubo-shaped) cardiomyopathy associated with hemophagocytic lymphohistiocytosis	中前博久	血液内科
Journal of Dermatology. 33: 353-9, (2006年5月)	Aggressive conservative therapy for refractory ulcer with diabetes and/or arteriosclerosis.	原田 輝一	形成外科
Journal of the American Podiatric Medical Association. 96: 508-12 (2006年11月)	Arthroplasty of the interphalangeal joint of the great toe using costal osteochondral grafting.	原田輝一	形成外科
Dermatologic Surgery. 32: 1251-5, (2006年10月)	Treatment of osmidrosis with the Cavitron ultrasonic surgical aspirator.	原田輝一	形成外科
救急医学 30: 1397-1402, (2006年9月)	外傷・組織傷害にかかわる手技と処置 創の縫合法	原田輝一	形成外科
日本救急医学会雑誌、17、 183-191 (2006年5月)	新たに考案したトリアージタグ書式の有用性	溝端康光	救急部
日本救急医学会雑誌、18、 31-38 (2007年2月)	重症急性膵炎における予後予測の早期指標としてのプロカルシトニン、IL-6値の有用性	加藤昇	救急部
Life Science (2006年4月)	Expression of FGF23 is correlated with serum phosphate level in isolated fibrous dysplasia	若狭 研一	病理部
Hepato-Gastroenterol (2006年7月)	Helicobacter pylori infection, but not mucosal atrophy, significantly affects serum pepsinogen level after gastric cancer surgery	若狭 研一	病理部
Oncology Reports (2006年8月)	Expression of type I interferon receptor as a predictor of clinical response to interferon-alpha therapy of gastrointestinal cancers	若狭 研一	病理部
Hepato-Gastroenterol (2007年1月)	Overexpression of MT3-MMP in hepatocellular carcinoma correlates with capsular invasion	若狭 研一	病理部
Surgery (2007年2月)	Patterns and clinicopathologic features of extrahepatic recurrence of hepatocellular carcinoma after curative resection	若狭 研一	病理部
Arteriosclerosis Thrombosis and Vascular Biology (2006年4月)	Persistent high levels of plasma oxidized low-density lipoprotein after acute myocardial infarction predict stent restenosis	大澤 政彦	病理部
Journal of Hypertension (2006年4月)	Expression of endothelin-converting enzyme, endothelin-1 and endothelin receptors at the site of percutaneous coronary intervention in humans	大澤 政彦	病理部
Leukemia& Lymphoma (2006年9月)	Expression of cyclooxygenase-2 in Hodgkin's lymphoma: Its role in cell proliferation and angiogenesis	大澤 政彦	病理部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Histopathology (2006年11月)	Mast cells in diffuse large B-cell lymphoma; their role in fibrosis	大澤 政彦	病理部
J Biol Chem (2006年8月)	Heparin potentiates the in vivo ectopic bone formation induced by bone morphogenetic protein-2	小池達也	リハビリテーション部
The Journal of Hand Surgery (American volume) (2006年11月)	Volar dislocation of the extensor carpi ulnaris tendon on magnetic resonance imaging is associated with extensor digitorum communis tendon rupture in rheumatoid wrists	小池達也	リハビリテーション部
J Interferon Cytokine Res. 27(3):201-7. (2007年3月)	Lamivudine and IFN-beta sequential therapy in HBe antigen-positive patients with chronic hepatitis B virus genotype C infection	田守 昭博	輸血部
Liver Int. 27(2):186-91. (2007年3月)	Development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C who had a sustained virological response to interferon therapy: a multicenter, retrospective cohort study of 1124 patients	武田 正	輸血部
Hepatol Res. 37(2):94-100. (2007年2月)	Effects of lamivudine on outcome after liver resection for hepatocellular carcinoma in patients with active replication of hepatitis B virus	田守 昭博	輸血部
Liver Int. 27(1):95-100. (2007年2月)	Thiopurine S-methyltransferase gene polymorphism in Japanese patients with autoimmune liver diseases	田守 昭博	輸血部
World J Gastroenterol. 12(33):5408-11. (2006年9月)	Successful treatment of giant rectal varices by modified percutaneous transhepatic obliteration with sclerosant: Report of a case	田守 昭博	輸血部
Hepatol Res. 36(3):195-200. (2006年11月)	Influence of interferon therapy on outcome after surgery for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma	田守 昭博	輸血部
Hepatol Res. 36(3):201-8. (2006年11月)	Coffee consumption and reduced risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic type C liver disease: A case-control study	田守 昭博	輸血部
Immunogenetics. 58(2-3):235-9. (2006年4月)	Geographical distribution and disease associations of the CD45 exon 6 138G variant	田守 昭博	輸血部

合計253

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

管理責任者氏名	病院長 原 充弘	
管理担当者氏名	庶務課長 安積 孝夫	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	保管場所 医療情報部 薬 剤 部	分類方法 診療録・エックス線写真・看護記録等については、医療情報部で、処方せんについては、薬剤部で保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶 務 課
	高度の医療の提供の実績	医事運営課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課
	高度の医療の研修の実績	庶 務 課
	閲覧実績	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬 剤 部
確規保則の第9条の2及び第11条各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 原 充弘
閲覧担当者氏名	庶務課長 安積 孝夫
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	68.2%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		16,299人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者数		14,404人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		594人
	D：初診の患者の数		31,461人

(注) 1. 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2. A、B、C、Dはそれぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 23 及び第 11 条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員：専任 (6) 名 兼任 (7) 名 医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を室長・統括安全管理者とする安全管理対策室を設け、専任安全管理者 2 名 (看護師、薬剤師各 1 名) を中心として、各部署から選出された安全管理者 (リスクマネージャー、79 名) とともに、様々な角度から調査・分析・検討を行い、部門横断的な安全管理対策を実施している。 平成 18 年 4 月の地方独立行政法人移行に伴い、安全管理対策室に専任の感染・褥瘡管理者も加え、また、安全管理対策室長を補佐するため、室長代理 (2 名) 及び顧問 (4 名) を任命し体制強化を図った。</p> <p>・ 活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none">○ 安全管理対策の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、安全管理対策協議会等の会議を定期的で開催し、医療安全対策の推進を図る。○ 医療安全対策に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に対する意識の高揚を図る。○ 安全管理対策室に送信されたインシデントレポートについて、週 1 回、リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。○ 様々な課題について、安全管理対策室内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。	
④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容 平成 16 年 12 月に改正した「大阪市立大学附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理に関して、安全管理上の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 用語の定義・公表基準○ 組織及び体制○ 院内報告制度○ 安全管理に関する教育・研修○ 医療事故発生時の対応○ 医療事故の調査と事故防止対策○ 医療安全相談窓口 <p>さらに、平成 18 年 4 月の改定で、独立行政法人化に伴う規程整備に加え、安全管理対策室の拡充及び医療事故審議会の設置、オンラインレポートシステムの更新について定め、平成 19 年 3 月には主に公表基準について改定を行った。</p>	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回(平成18年)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理対策協議会での活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内の安全管理対策の検討及び推進に関すること ○ 安全管理等の情報に関すること ○ 医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること ○ その他、安全管理に関すること 	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年24回(平成18年)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員を対象とした講演会の実施。(3回) ○ 部署別事例研修の開催(1回) ○ 新規採用の医師・看護師及び研修医に対し、安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催。 (新規採用者研修：医師11回、看護師1回、研修医1回、技師1回) ○ リスクマネジメントに関する理解を深めるためリスクマネージャーを対象とした伝達研修、事例検討会の開催。(3回) ○ 医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催。 (医師対象2回、看護師対象1回) 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 <p>病院各部門は、医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデント及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p> <p>報告されたレポートについては、週1回、リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あて詳細な調査や報告書の提出を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。</p> <p>また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p> <p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、報道資料より他院事例などを周知し喚起している。</p> 	